



令和元年5月10日発行 中等新報第7号
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

中等最後の1年 ～ 第一志望校へのこだわりが大事 ～

5月8日（水）、4～6年生対象に、3月に実施したスタディサポートの結果を踏まえた進路講話を実施しました。講師は、ベネッセ・コーポレーションの長田晴孝様です。6年生対象の講話では、スティーブ・ジョブズの「過去を振り返って、はじめて一つ一つの経験(点)がつながっていたことが分かる。ある経験のただ中にいるときには、それがこの先他の経験とどうつながっていくかは予測できない。だからこそ、一つ一つの経験において精一杯生きることには価値がある」という言葉を紹介しながら、人生における受験勉強の意義を語っていただきました。

以下は、校長から6年生の皆さんへ贈るエールです。受験も、人生における貴重な経験の一つです。全力で取り組むことで、大学の可否以上のものを手にすることができるのです。

- ① 早めに志望校を確定し、その大学のことを調べる。大学の特徴を具体的に知ることでモチベーションが上がるはず。特に、大学で何をどのように学ぶのかについては、積極的に資料を集めて理解しておこう。心の底から「〇〇大学△△学部××学科」へ入学したいと思うことが第一歩(とはいえ、いつそう思えるようになるか分からないので、準備だけは始めないと…)
- ② 前期中間考査の準備を利用して、1日の学習量のアップを図る。試験が終わっても学習量を元に戻さない。
- ③ 人にはそれぞれ「忘却のリズム」がある。どれくらいの間隔を空けて復習するのが効果的なのか、確認してみよう。
- ④ 過去問の傾向をつかんだ上で、夏季休業中に仕上げる参考書・問題集を選ぶ。各科目1冊に絞ったら、隅から隅まで丁寧に消化していく。知識というものは、相互の関連、ネットワークができてこそ意味がある。隙間だらけ、穴だらけの暗記は受験には通用しない。本番までに少なくとも3回は繰り返して、知識の穴をなくす。
- ⑤ 夏季休業中の重点目標は、記述力のアップ。全国模試の記述式問題(国語の場合、全統記述の問題は良問)や第一志望校の過去問を繰り返し解くのが効果的。夏季休業明け以降は、教科担当の先生から過去問添削指導を受けること。
- ⑥ 10月の全統記述やベネッセ駿台記述で思うような結果が得られなくても、決してくさらない。本気で受験準備を始めてから結果が出るまで4,5か月はかかる。夏季休業を全力で頑張っても、12月頃にやっと結果が出ると思えばよい。

ご自分の受験生時代の経験を語る長田様



あくまでも第一志望校に現役合格することを目標に。現役生は試験当日まで伸びる。

